

# 別紙

## 公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

第10回環境影響評価審査会  
事務局資料  
平成28年8月29日

### ■公述人3

公述意見の要旨	市の考え方
<p>東高島駅北地区土地区画整理組合設立準備組合にお願いしますという形で進める。公有水面を残してほしい。公有水面を生かしてまちづくりを進めてほしい。もし、この公有水面がまちづくりを進める際に、障害となるのなら、埋立ては最後の最後にしてほしい。歴史的資産がなくなってからにしてほしい。</p> <p>隣の西区のみなとみらいとことでは、決定的な違いがある。みなとみらいの海の埋立てでは、横浜市が当事者にならざるを得ないが、ここは違う。運河を埋め立てる必要がない。ここには、地主なり地権者や関係者、第一の当事者がいる。</p> <p>初めに北側のゴルフ場の裏から道路を敷いてほしい。そうすれば、道筋ができる。これだけで半ば自動的に展望が開ける。駐車場の大型車を北へ逃がす道路が必要である。</p> <p>この運河があたかもこの地区を分断しているように見えるかもしれないが、この運河は、このアイランド、島を特徴付けている。この運河に囲まれたアイランドにおいては、あいのくにというコンセプトのもとにまちづくりを進められたらどうか。</p> <p>市素案において、健康医療福祉複合地区では樹木なども植えられるであろう。橋を渡したらいい。西北の運河である。これが浜町である。この内堀が埋め立てられるとは考えてもいないようである。ここは、渚や砂浜がベストだと思う。これが無理なら水を抜く。</p> <p>南西の運河である。橋を渡すお金がないと言うのなら、鉄板を渡してほしい。ただし、暗渠になるのは勘弁してほしい。水を抜く。パークである。パーキングである。地下駐車場である。全国から横浜をキャンピングカーで訪れる、そのための地下駐車場である。</p> <p>東南のこの水域は、水を張ったドックのように見える。この水域は、例えば氷川丸を収容できるくらいの広さがある。ここを掘り進めてもいい。</p> <p>パークという言葉について、説明する。パークというとほとんど公園としか返ってこない。それだけではない。中区三溪園があるが、もともとは私園、あれがパークである。もう一例はランドマークタワーの下のドックヤードガーデン。</p> <p>公有地をパークとして経営してくれる人がいるなら、売り払っていいと思う。</p> <p>建物にすれば、地下3階、地上7階の水上ホテルである。全国から横浜を訪れる修学旅行生のための宿泊施設である。</p>	<p>東高島駅北地区（以下「当地区」という。）を含む東神奈川臨海部周辺地区のまちづくりは、平成15年に策定した『横浜市都市計画マスタープラン神奈川区プラン』等の上位計画により平成16年に策定した『東神奈川臨海部周辺地区再編整備計画』（以下「再編整備計画」という。）を基に、官民連携で展開してきました。</p> <p>当地区は、再編整備計画において東神奈川駅から海に向かう「東神奈川まち・海軸」の中心に位置し、大規模・低未利用地の段階的な土地利用転換による新たな都市機能の導入を進め、拠点ゾーンにふさわしいまちづくりを推進するとしており、東西道路の新設検討や竜宮橋線の機能強化などの交通基盤整備、敷地の整形化などによる都市機能更新、運河活用によるプロムナード等の整備や一部埋立てなどを挙げています。</p> <p>また、横浜市都心臨海部再生マスタープランにおいて東神奈川臨海部周辺地区は、横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区に隣接し、かつ横浜最大の資源である「港」に面するなど、都心に必要な新たな機能や施設の受け皿となるポテンシャルを有しているため、都心臨海部の一つに位置付けられています。</p> <p>都心臨海部は、横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、関内・関外地区、山下ふ頭周辺地区、東神奈川臨海部周辺地区の5地区からなりますが、同マスタープランでは、横浜駅周辺地区は中核業務広域商業等、みなとみらい21地区はMICE拠点等と、各地区の個性を生かした機能配置のイメージを示しており、東神奈川臨海部周辺地区においては、機能配置のイメージとして研究・教育、医療、健康及び居住を掲げており、人々を惹き付ける新たな拠点づくりのための主なプロジェクトの一つに当地区の面的整備を位置付けています。そして、これら個性豊かな5地区の魅力をつなぎ合わせる「みなと交流軸」の形成と、「地区の結節点」における連携強化を重点的に進めるとともに、一体的なまちづくりにより、港と共に発展する横浜ならではの都心を形成するとしていきます。</p> <p>当地区は、道路が狭あいで歩行者空間が十分に整備されておらず、下水道も未整備である等、都市基盤の整備が遅れています。また、小規模な工場や老朽化した建物、駐車場などの土地利用となっており、都心にふさわしい高度利用がなされていません。さらに、地区の中心に位置する現状ではほとんど利用されていない不整形な水域によって土地が分断され一体的な面的整備が困難な状況です。</p> <p>そのため、上位計画に基づき埋立てを行うことで、都心にふさわしい一体的な土地利用や、都心臨海部を連携強化する都市計画道路栄千若線（以下「栄千若線」という。）の整備、喫緊の課題である横浜駅周辺地区の浸水対策としての東高島ポンプ場の整備が可能となり、防災や環境も含めた総合的なまちづくりが実現できます。また、水辺や神奈川台場などの地域資源を活用しながら、遊歩道や広場など市民の多様な活動に資する空間の形成や防災デッキの整備などについて地権者で構成された東高島駅北地区土地区画整理組合設立準備組合とともに検討しています。</p> <p>当地区に関わる工事については、まず都市計画道路東神奈川線側から栄千若線の一部を整備し、主動線とすることを検討していますが、引き続き、周辺の環境に配慮し、市民の皆様の御意見を踏まえながら施工計画を策定し、工事着工前までに周辺住民の皆様にご説明します。</p>